

【授業を見つめる視点】

みなさん、1月16日に発行したセンターだより特別号（保存版）は、読んでいただけましたか。教育センターでは、学力向上のための土台となる授業改善に向けた各学校の取組をサポートしていきたいと考えています。子どもたちに「確かな学力」を身につけさせるためには、子どもたちがその目標の実現に向けてどのように変容しているか、また、どのような場面でつまづき、それを改善するためにどのように指導していけばよいかを明らかにすることが大切です。どの教科、学年、校種でも、授業構想を考えるためには、子どもたち一人ひとりの生活基盤や学習基盤の課題を踏まえ、ていねいな子ども理解と教材解釈が必要であることは言うまでもありません。今回は、第2弾として「授業力向上」をめざし、センターだより特別号（1月16日発行）に対応させ、～授業を見つめる視点～としてまとめました。日々の授業で参考にさせていただきたいと思います。

よいよい 授業をめざして..

どうしたらいいの？

A 学校として授業研究を活性化するために...

- ・どんな授業がいい授業なんやろ？ みんなはどう考えてるのかなあ...
- ・先輩の授業をもっと見たいなあ...
- ・やっぱり教科が違くと授業研究会で意見聞きにくいなあ...
- ・「子どもが楽しそうにしていたね」で授業研究会が終わってしまっええんやろうか...

B 学習意欲を高め、どの子にもわかる授業を行うために...

- ・子どもはいろいろ活動していたけれど、はたして力がついたのかなあ...
- ・子どもの「わかった！」「できた！」の音が聞きたいなあ
- ・導入に何をしようかなあ...パソコンも使いたいけど...
- ・今日の1時間、子どもは何をしていたんやろ...
- ・なんか先生ばかりがしゃべっていたような...

C 学習環境を整え、一人ひとりのニーズに応じた授業を行うために...

- ・授業の始まり、話を聞く姿勢・学習用具の準備など授業ルールを守らせたい
- ・なかなか席につけない子どもがいるんだけど...
- ・学力の差がありすぎる中で、どの子にもわかる授業をするためにはどうしたらいいんだろう
- ・子どもたちが進んで教室をきれいにするには...

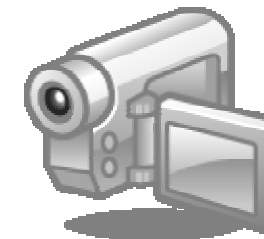
裏面へ

こんな声にお応えするために
授業の視点を
考えてみました！

A 学校として授業研究を活性化するために...

授業研究の方法

- (1) 校内での「めざす授業像」の共有化・授業を観る「共通のものさし」
校内で授業評価シートなどを作成し、それに基づいた研究協議
中学校での、教科の壁を越えた授業研究会の開催
- (2) 自分の授業の記録を残し、あとから振り返る場
授業のビデオ撮影、板書のデジカメ撮影による振り返り



校内研修の活性化については次号で詳しくお知らせします！！

C 学習環境を整え、一人ひとりのニーズに応じた授業を行うために...

授業に向かう姿勢づくり

(1) 大切な学習ルール

- 授業の始めと終わりの時刻を守る
- 授業の始まりと終わりの挨拶
- 挨拶の後すぐに授業に向かう雰囲気を作る
- 授業の始まりでの学習の準備
- 忘れ物・遅刻が見逃されていないか
- 私語があるのに、教師が話し始めているか
- 発言の仕方・発言の聞き方の決まりをつくる
- ルール違反を見て見ぬふりをしていないか
- 「説明を聞いてから動き、動く場面が終わったら集中」を徹底する



(2) 学びに向かう学習集団になること

- 子ども同士が、お互いの意見や考えを聞き合う
- 間違った発言をした子どもへの受け止めが、温かい関係の中で行われている
- 積極的に発言しようとする雰囲気がある

(3) 学習環境の整備

- ゴミなどを落とさず、清潔で気持ちいい教室になるよう努めている
- 掲示物など作品が外れていたりしない
- 机と椅子の高さが子どもに合ったものになっている
- 窓が開けられ、換気が行われている
- 黒板がきれいに拭きあげられている



B 学習意欲を高め、どの子にもわかる授業を行うために・・・

学習意欲を高めるために

(1) 学習意欲を高めるための導入や展開の工夫

考えなくなる・知りたくなるような教材・教具の工夫
(視覚に訴える・既成概念を揺さぶることなど)
ICT機器を活用した教材・教具の工夫も...

(2) 発問の工夫と子どもたちが活躍できる場

1問1答(YES・NO)ではなく、考えが広がり深められる主要発問は大切
多くの子どもが発言する場をつくる
答えに導くヒントをうまく提供する
指名の仕方の工夫
答えるのが苦手な子どもも発言できる工夫

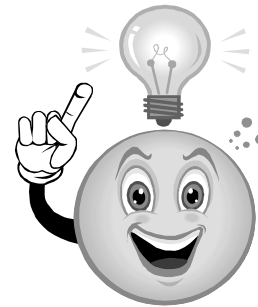


(3) 子どもの状況を捉えた教師の話し方

不規則発言にうまく対応している
子どもの状況を見て、臨機応変に話す速さを変えたり、反復したりしている
集中しやすい、聞きたくない話し方
言葉の強弱・抑揚・身振り・手ぶり・表情など、メリハリをつけて話すなど聞かせる工夫

(4) 子ども自身が学びを実感し、成就感・達成感を感じる

子どもに肯定的評価・褒め言葉をたくさん伝える
学習目標を子どもに示し、この時間の「新しい学び」は何かを子ども自身が実感できる



(5) 操作活動や体験活動など、活動を通しての学ぶ場

1時間の学習活動の構成を工夫する(1時間の組み立て)
(例:操作活動・反復学習・<話す・聞く・読む・書く>のバランス)

わかる授業を行うために

(1) 子どもが動きやすい指示

短い言葉で話す・一度にたくさんの指示を出さない
複数のことを1回で指示する時は、ナンバリングを使う、板書するなど視覚に訴える工夫

(2) 1時間の中での、学習活動形態(個・ペア・グループ・全体)の工夫

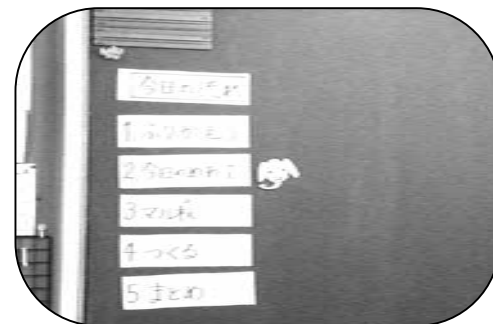
(3) 一人で考える時間と、自分の考えを表現する場をつくる

(4) 個の学びを深める子ども同志の意見交流や教え合い活動

教師対子どもの1対1の応答だけではなく、
子ども同志の双方向の交流が行われていたか

(5) 見通しのある授業

掲示物等により、学習の最初に単元の流れを子どもと共有化する
板書の工夫等により、1時間の学習の目標と流れを子どもに示す



1時間の授業の流れを最初に示す。
今どこの学習をしているのが、ぞうさんマークを動かすことで示されています。

(6) 板書の工夫

学習のめあてを示す
どの場所に何を書くか、書き方の一定の決まりを作る
1時間の内容が、わかりやすくまとめられ、授業の最後に学びを振り返ることができる
文字が丁寧で、色分けや貼り物を工夫するなど構造的にわかりやすくまとめられている

(7) 個に応じた指導内容・方法の工夫

子どものつまづきを予想した、支援方法・教材や助言の準備
(個に応じたプリント教材・ヒントカード・アドバイスメモ等の工夫)
早く課題ができた子どもへの指導内容の準備と、適切な対応

(8) 机間指導

机間指導はすべての子どもに行き届いている
机間指導で個別に集中をさせたり、適切なアドバイスをしている

(9) ノート指導・ワークシートの工夫

一定の決まりを持ったノート指導
単に、板書を写すだけのノートではなく、自分で工夫して考えなどを書き込めるノートづくり
丁寧なノート点検と、子どもへの評価
ノートをとることが困難な子どもへの配慮
単に穴埋めではなく、自分の考えや工夫して書けるなど創造的な部分のあるワークシート
最初の学びと学習した後の学びを記入し、自分の学びがわかるような工夫

(10) 教えて考えさせる授業

問題解決場面に入るまでの既習事項や基本的学習内容の確認

確かな学びのために

(1) 指導目標が達成できたかの見取り

一人ひとりの子どもの学びの状況の把握(1時間ごとの形成的評価)
形成的評価を生かして、次時の指導内容を工夫
自己評価・相互評価場面を効果的に入れる
実態を踏まえた指導計画・評価計画の作成
学習活動がねらいに沿って行われていたか
子どもの状況を見取る
(子どもの表情はいきいきしていましたか)

(2) 授業形態を工夫し、その形態ならではの良さを活かす

TT・少人数分割指導・学年分割指導・習熟度別指導等

